

自 己 評 価 表

教育方針	地域社会と一体となって、校訓「克己」を基に、社会の形成者としての自覚を持たせ、生徒一人一人の能力・適性・進路に応じた指導とその実現に努め、心身ともに健全でたくましく生きる人間の育成を期す。	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 元気に学校生活に取り組み、生き生きと輝く生徒を育てる。 2 より高い確かな学力を身に付けさせ、自己教育力を育てる。 3 規範意識・自己統制力・共生の心・対人関係能力を育てる。 4 希望進路を実現させるとともに、勤労観・職業観を育てる。 5 たくましい体力を身に付け、心身ともに健康な生徒を育てる。
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	魅力と活力ある教育活動の推進	生徒が生き生きと活動し、学校生活に充実感を持つことができる学校づくりを目指す。 「起業家教育プログラム」を始めとする独自の魅力的な諸活動において、ICT機器と外部人材を積極的に活用し、人材育成を目指した魅力ある教育活動を推進する。	B	学校生活に充実感を抱いている生徒は76%であった。新型コロナウイルス感染症対策の影響があるものの、多くの生徒が充実感を持って学校生活を送っていたようである。また、悩みを抱える生徒も増えており、教育相談的な対応を担当課や学年団を中心に対応することができた。 「起業家教育プログラム」における外部人材の活用をオンライン型と対面型の授業を組み合わせる工夫により、魅力ある教育活動を実践することができた。	一層、生徒一人一人に目を配り、生徒が目的を持って学校生活を送ることができるように教職員間で情報共有を図し、各学年団を中心に適切な支援を行う体制を整える。 悩みを抱える生徒に対して、教育相談的な対応を担当課や各学年団を中心に継続して対応する。 教育活動の更なる魅力化を図り、地域と協働しながら生徒の主体的な活動となるよう支援する。
	人間としての在り方生き方を考える教育の充実	ホームルーム活動の時間に、年3回は人間としての在り方生き方を考える時間（道徳教育）を設け、学校生活における様々な場面での指導の充実に取り組む。	A	ホームルーム活動の年間指導計画に道徳教育を位置付けて各学期に1回実施した。全校集会や学校行事を通し、豊かな心を育てるとともに規範意識の高揚を図った。 公開授業時には人権・同和教育に関するホームルーム活動を保護者や地域の方々に参観していただき、参観後には御意見や感想をお聞きすることで、今後の取組について検討することができるように工夫した。	道徳教育の全体計画を踏まえて、全教職員が、各教科や特別活動などの活動において、生徒の自尊感情を育み、自己肯定感を高めることができる取組を実施する。 人権・同和教育ホームルーム活動に多くのの方々に参観していただき、率直な意見交換できる場面を作る。
	開かれた学校づくり	年間10日程度の教育活動公開日を設定するとともに、参加者数の増加を図る。 生徒たちの学校生活の様子をホームページに毎日掲載するなど、積極的な情報発信に努める。	A	82%の保護者に学校の様子が積極的に発信されていると評価されている。運動会、小田校祭、入学式、卒業式、4日間の授業公開を含め10日間教育活動公開日の行った。 学校のホームページをほぼ毎日更新し、県内外の保護者や地域の方々に本校の教育活動を知っていただける積極的な情報発信に努めた。 地域みらい留学等に参加し、県外の中学生、保護者にも本校のことを知っていただける機会を設けた。	本校の教育活動を、県内外の多くの中学生、保護者に知っていただけるように校内外での生徒の活動や発表を積極的に行い、発信していく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	地域との結び付きを大切に した魅力ある教育の推進	地域住民との交流や幼・小・中学校等との交流学習を積極的に行い、豊かな人間性を育む。 教科「探究」や起業家教育プログラムを中心に、地域を担う人材の育成に努める。	A	「地域や保護者との連携・協力」の項目について、80%の保護者、75%の生徒から高い評価を得ている。生徒がコスモスの苗を育ててお年寄りに配ったり、自治会連絡協議会等で学校の取組を発表したりするなど、「起業家教育プログラム」における活動において積極的に地域と関わるとともに、教科「探究」におけるプロジェクト学習を通して、地域の課題を発見し、課題解	地域や幼・小・中学校と連携した、交流、奉仕、防災等の活動の充実に今後とも努める。 外部講師を積極的に活用し、様々な人々との出会いを提供するとともに、普段の授業では学ぶことができない体験活動のより一層の充実を図る。
	家庭学習の充実	生徒が主体的に家庭学習に取り組み、毎日平均3時間以上の学習時間を確保するよう、各教科における指導法の工夫・改善、ICT機器の効果的な活用に取り組む。 A：180分以上 B：179～150分 C：149～120分 D：119～90分 E：89分以下	C	家庭学習時間が1学期平常日が約149分、2学期平常日が約139分、3学期平常日が約98分で、昨年度の比較すると1・2学期は増加したものの3学期は大きく減少し、目標の3時間には届かなかった。また、49%の生徒が家庭での学習習慣が身に付いていないと自己分析している。 課題の作成や配付・回収方法は、教科・科目の特性を踏まえ受講生徒の実態に合うように工夫したり、ICT機器の活用した家庭での学習方法を指導したが、十分な定着には至らなかった。	引き続き、各教科で計画的に課題を与えるとともに、その評価・点検を徹底していく。家庭での学習につながる授業の展開及び自主的な予習・復習が習慣化するような指導を今後とも継続していく。 また、生徒一人に1台のタブレットが貸与されているので、今まで以上の効果的なICT機器の活用を目指して、生徒自身に技術・技能の習得も併せてできるよう今後も指導していく。
	教科指導の充実	ICT機器を積極的に活用し、生徒のやる気を引き出す指導の充実を図り、85%以上の生徒が「分かる授業」であると実感できるよう、授業評価の充実を図り、工夫・改善に取り組む。 A：85%以上 B：84～70% C：69～55% D：54～40% E：39%以下	A	90%の生徒が「分かる授業となるよう先生が工夫・改善をしている」と評価した。公開授業で参観していただいたほぼ100%の保護者の方からは「授業の工夫や改善に取り組んでいる」との評価を得た。 授業におけるICT機器の活用では全教員が自己研修を行ったり、遠隔授業の研修を受講したりするとともに、ICT機器活用の頻度や技術の向上が図られてきている。	授業アンケートの「やる気を引き出す授業でしたか」という集計結果と合わせてを分析すると、おおむね良好であると思われるが、まだ課題はある。各教科においてそれぞれの課題をしっかりと確認・分析し、指導方法や使用教材の研究に努めるなど今後とも改善に取り組む。また、ICT機器の効果的な活用方法について、今後とも研修に取り組んでいく。
		習熟度別学習や個別指導を徹底するなど、一人一人を大切にしたいきめ細かな教科指導の実践に取り組む。	A	89%の生徒、89%の保護者が「一人一人を大切に授業が実施されている」とし、91%の生徒、95%の保護者が「先生は個別指導も熱心に取り組んでいる」としており、高い評価を維持している。	引き続き、習熟度別講座編成や幅広い選択科目開設などに努め、少人数指導を充実させながら、生徒の能力や進路等に応じた個別指導の徹底を図る。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	言語活動の充実	教科指導や教科外指導を通じて、生徒が主体的・協働的に学び、思考力や判断力、表現力等を身に付けるよう取り組む。	A	各種行事の実施後に感想をレポートにまとめたり、報告会でまとめた内容を発表したりするなど、言語活動の充実を図ることができている。「オダカン」や「ODAKO STUDY KISSA」等においてアクティブラーニングの推進に努めており、多くの生徒が主体性や積極性、思考力や表現力を身に付けることができていると考える。	全ての教員が共通理解の下、地域の方や企業の方との協働的な活動も積極的に取り入れながら、様々な教育活動の機会を捉えて、個々の生徒の生きる力の育成につなげ、これからも言語活動の充実に努める。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣を確立させるために家庭との連携を深め、安易な遅刻・欠席を防ぐとともに、生徒に対する細やかな指導や校内における教育相談体制の充実に努め、一年間の皆勤率60%以上を目指す。 A：60%以上 B：59～50% C：49～40% D：39～30% E：29%以下	C	皆勤率に関しては、60%以上の達成はできなかった。基本的生活習慣の確立が難しい生徒も増加し、また精神的な不安感から登校が難しい生徒も存在している。教育相談に関して教職員が連携して生徒の話を聞いているが、不十分な部分もある。	家庭との連携をより一層密にし、生徒の基本的生活習慣の確立に努め、皆勤率60%以上の達成を目指したい。また教育相談体制を充実させ、生徒の学校生活を充実したものになるように努める。
		学校・家庭での生活全般において、自律的・積極的な生き方を身に付けるため、規範意識の向上に努め、学校や社会のルールやマナーを遵守し、自己管理ができるさわやかな生徒を育てる。	C	規範意識を高めるために、学校や社会のルールを知るところから始まり、実行できる人材育成のために教職員一丸となって取り組んだが、一部ルールの順守やマナーに問題のある生徒が見られた。	次年度も細やかな指導を継続し、自己管理のできるさわやかな生徒を育成し、小田分校を盛り上げていく機運を醸成していく。
	特別活動の充実	部活動の参加率を高め、適切な練習時間や休養日を設定し、生徒一人一人が部活動等に意欲的に取り組み充実感を味わい人間性の向上に努めるとともに、県大会出場35%以上を目指す。 A：35%以上 B：34～25% C：24～15% D：14～5% E：5%以下	B	運動部への加入者は減少の一途をたどっている中で、剣道部が新人戦において四国大会出場を達成するなど、成果の現れた部もあった。 文化部においても、熱心に活動し全国商業高等学校英語スピーチコンテスト全国大会に出場した。	次年度以降は、コロナ禍と違い、どの部活動もこれまで通りの活動が見込まれるので、生徒が積極的に活動できるように環境整備等も含めて支援・指導を進めていく。
健康・安全指導の徹底	健康・安全・防災等についての講話や教室、指導、実習等を年間30回以上実施し、生徒が自立的に安心・安全な生活できる能力や資質を培う。 A：30回以上 B：29～20回 C：19～10回 D：9～1回 E：0回	B	健康・安全・防災等に関しては、ホームルーム活動、教科、学校行事等で、具体的に学習・活動できた。特に訓練や実習といった事態を想定して行われたものは、真面目に向上心を持った活動を行うことができた。	次年度も様々な場面において、実践的な取組ができるよう情報を入手し、工夫を重ねて成果を高めていく。	

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	健康・安全指導の徹底	交通事故0件を目標に安全指導の徹底を図り、交通ルールの遵守、マナーの向上に努めるとともに、自他の命を大切にできる生徒を育成する。 A：0件 B：1件 C：2件 D：3件 E：4件以上	B	今年度は交通事故件数は1件であり、目標としていた交通事故0件は達成できなかった。それ以外は生徒が意識的に交通安全に取り組んだこともあり、事故は続かなかった。バス通学生もマナー良く町営バスを利用することができた。	自転車通学生に関しては、学校に乗り入れる生徒だけでなく、自宅から最寄りの駅、バス停まで使用する生徒も含めて交通安全に対する意識を高めていきたい。また様々な場面においてマナー向上に努めている。
進路指導	キャリア教育の充実	職場見学やインターンシップ、講演会、ガイダンス、学年指導等のキャリア教育を通じて、望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、進路意識の高揚を図る。また、キャリアプランニングの推進を図り、各種活動において各自の目標と振り返りができるように、キャリアパスポートの活用に努める。さらに、生徒や保護者に対して、ホームページを活用した情報発信の充実を図る。	B	職場見学やインターンシップ、外部講師を招いての面接指導や各種ガイダンス、校内で実施する学年指導など、各学年に応じたキャリア教育を実施・充実することができた。キャリアパスポートの作成を通して、生徒の体験や活動等の振り返りができるように促した。学校ホームページで諸活動の様子を随時発信することができた。	生徒の希望や適性に沿い、勤労観・職業観が育成されるよう、各種ガイダンスや学年指導などのキャリア教育の充実に努めていきたい。また、コロナ禍以前の状況にキャリア教育を完全回復させる。 キャリアパスポートの有効活用について、キャリアプランニング推進委員会の中で改めて考えていく。
	個に応じた指導の充実	各種模試（学びの基礎診断を含む）及び補習を計画的に実施し、生徒の学力向上を目指す。また、進路に関する講演会やガイダンスを通して、進路選択に対し幅広い視野を持たせる指導を行う。さらに、個々の進路希望に応じた面接及び志望理由書等の指導を行う。大学進学を希望する生徒に対しては、個別の教科指導の充実に努め、進学就職率100%を目指す。 A：100%以上 B：99～90% C：89～80% D：79～70% E：69%以下	C	各種模試及び補習は、年間計画通り実施し、生徒の学力向上や進路意識の高揚を図ることができた。 担任・学年団を中心に、就職指導、進学指導において、個に応じた指導を行うことができた。 3月1日卒業時点で進路先が未決定の生徒に対する指導を継続的に実施している。	教科指導・学習指導・面接指導を行う上で、特定の教員に偏るケースが多くなっているため、早期に対応し、教員の指導を分散する。 進学指導においては、グループディスカッションや小論文を課すなど、受験方法が多様化しているため、早期に生徒の特性に合った受験方法の把握や受験に対する意識を高められるような指導を実施する。
業務改善	適切な勤務時間	週に1回個々で「ノー残業デー」を設け、教職員の時間外労働の時間削減を図るとともに、業務の効率化への意識を高める。	C	週に一度の「ノー残業デー」の設置には至らなかった。業務を効率化する努力はしたが、休職2名の負担が他の教職員にまわり不十分であった。	教職員が決めた曜日で「ノー残業デー」を設定し、業務の効率化を図り、時間外勤務を削減したい。教職員の健康管理にさらに注意する。
	職場環境の整備	年休の積極的な取得を呼び掛けたり、上司に相談しやすい雰囲気を作ったりすることにより、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	C	積極的な年休取得等を促し、ライフワークバランスに努めるようにした。報告・連絡・相談が十分に機能しているようには感じなかった。	上司に報告・連絡・相談することが実行しやすい環境整備をしていく。上司からの声かけを積極的に行うように指示する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。